研　究　紀　要

外　国　語　部　会

［講 演］「CLIL と SDGs 活動を通した英語力と社会性の育成～Output 体験を最大限に生かす～」
佐賀県立佐賀東高等学校　教諭　石 橋　　俊 …… 1
［公開授業］
発表者　青森県立田名部高等学校　教諭　馬 場　桃 子 …… 2

［第１分科会］「基礎学力の定着を目指して」
青森県立青森工業高等学校　教諭　福 士　徳 生 …… 7

［第２分科会］「商業高校における発音指導と論理的思考の育成～選択科目での取り組み～」
青森県立八戸商業高等学校　教諭　前 田　祥 子
外国語指導助手　スーザン・ボルジング …… 9

［第３分科会］「学力層に対応する『シン三本木メソッド』～縮約版を活用した授業実践～」
青森県立三本木高等学校　　教諭　坂 岡　優 子 …… １１

部　会　の　動　き …… １４

研　究　テ　ー　マ …… １６

紀要編集委員　三宅　愛　（青森県立青森南高等学校）

外　国　語　部　会

【全　体　講　演】

CLIL と SGDs 活動を通した英語力と社会性の育成

～Output 体験を最大限に生かす～

講　師　佐賀県立佐賀東高等学校　教諭　石橋　俊
記録者　青森県立大湊高等学校　教諭　小原　舞子
臨時講師　栗林　月

はじめに

英語教育の中でアウトプットが重視される中，インプットが不十分な状態になっているのではないだろうか。佐賀県立佐賀東高等学校の外国語科の授業では，CLIL（内容言語統合型学習）を通して，大学進学率，実用英語技能検定の合格者数，模擬試験の偏差値や受験へ向かう姿勢に変化が見られた。CLIL の概要と実践例の紹介を軸に，新学習指導要領の学力の 3 本柱である①学びに向かう力，人間性②知識及び技能③思考力，判断力，表現力のバランスの取れた育成を目指す。

１　CLIL について

（１）母語以外の言語を使って内容とその言語の両方を学び教える２焦点の教育法である。

何をアウトプットするかを初めに設定し，何をインプット，インテイクしていくかを明確にする。英文読解が主軸にならず，必要なデータやヒントを収集していく活動を通して知識を身に付けていく。そのため英語の勉強をしなければならないという意識からの解放が期待されている。

（２）CLIL の 10 大指導法

①内容学習と学習素材の比重を近づける。
②Authentic な素材の使用を推奨する。
③文字だけでなく音声・数字・視覚による情報を与える。
④様々なレベルの思考（暗記・理解・応用・分析・評価・創造）を活用する。
⑤生活に関連するタスクを多く与える。
⑥協働学習を重視する。
⑦異文化理解や国際問題の要素を入れる。
⑧文内容と言語の両面での足場作りを用意する。
⑨４技能をバランスよく統合して使う。
⑩学習スキルの指導を行う。

２　Oral Introduction

社会問題と関連した写真や動画，データを用い，picture description や information gap を行う。また，学習前段階での問題意識や問題の原因・解決方法などについて pair work や group work で話し合いをし，発表させる。例えば，世界地図を扱う Lesson に「自分の国や地方を大きく書く傾向がある」という情報がある時は，「東北地方を描いてください」と指示を出す。これにより，後に教科書に書いてある内容の通り自分の県を大きく描いているかを確かめられると同時に Lesson への興味を引き付けることができる。

3　授業の Body

教科書にある情報をより実社会の課題として捉えるために，4Cs Framework を意識した授業を行うことで，生徒は，地域レベル，自治体レベル，国レベルで問題を意識し，対話的で深い学びが可能になったと考えられる。4Cs は内容(content)，言語認知・言語技能(communication)，低次思考力・高次思考力(cognition)，協働学習・異文化意識(culture or community)の４つである。特に思考力に関しては，一般的には単語の発音やフレーズの意味を理解するといった低次思考力から,新しいものを生み出す高次思考力へと流れを決めがちだが，CLIL の考えでは，高次なものから始め，低次と高次を行き来することも可能であると考えられている。

4　活動実践例

（１）他教科の教員に 20 分ほどテーマに沿った授業をしていただく。

英文の内容が気候の話だった場合，地歴科の先生に気候やそれに関する文化や歴史を授業してもらう。予備知識を入れることで，英文の内容を理解する手助けとなる。長文読解がスムーズになり，空いた時間でコミュニケーション活動ができる。他国の気候についての英語の活動等を取り入れることが可能である。

（２）物語を５つのスライドにまとめる。

登場人物の特徴や話の流れなどを５枚のスライドにまとめる。共通テストで問われる問いを自分で作ることになり，どこにキーとなるフレーズが書かれているかを推測する力が身につく。

（３）写真を使った導入をする。

教員が説明する前に，Lesson の内容に関係する写真を使って生徒に活動させていく。推測させたり，創作させたりして，知的好奇心を刺激する。その後に教員が説明していく。

（４）新出単語の練習をする。

導入，ディクトグロス，TF クイズの後に，新出単語を CCQs により学んでいく。

5　結果と考察

入学当初の英語の偏差値は 35 に及ばなかったクラスだが，１年かけて偏差値 50 を維持している。また，実用英語技能検定では 2 級保持者が 10 名を超えている。さらには取り扱った社会問題に興味を持ち，県内外で実践発表を行ったり，それらを学習できる大学に進学を希望したりする生徒もいる。

CLIL の実践により，生徒は模擬試験を受けた際，授業との関連や自分が何を間違えて点数を落としたのかメタ認知できている。英語学習を通して自己肯定感の高まりの感じることができていると考えられる。

【公　開　授　業】

発表者	青森県立田名部高等学校	教諭	馬場　桃子
助言者	青森県立野辺地高等学校	校長	小倉　民生
司会者	青森県立田名部高等学校	教諭	堤　　孝
記録者	青森県立田名部高等学校	教諭	工藤　真暢

1　学校の紹介

1949 年創立の青森県立田名部高等学校は，むつ市に位置し，全日制の課程・定時制の課程のある単位制の学校である。地域と世界で活躍できる人材の育成をスクールミッションとし，学問，スポーツ，文化活動を通じて，生徒一人ひとりが自らの可能性を発揮し，グローバルな視点と地域に貢献する心を持った人材となることを目指している。全日制の課程では１年次あたり５クラスが設置されており，現在 533 名が在籍している。それぞれのクラスでは，文系・理系の進路に対応したカリキュラムが用意されており，生徒たちは多様な学びの選択肢を持って学校生活を送っている。

2　TANABU Model の変遷

田名部高校では英語コミュニケーションにおいて，TANABU Model を用いて授業を行っている。開始当初の2013 年度は 1 課を 15 時間で実施する「パターン A：超こってりコース」，最終タスクとしてリテリングを行う12 時間の「パターン B：こってりコース」，アウトプット活動を行わず，リスニングによって教科書本文を理解し音読する 4 時間の「パターン C：あっさりコース」，教科書本文を読解テスト形式にし，初見でテストを行って 2 時間で内容理解を図る「パターン D：超あっさりコース」の 4 コースあった。しかし，生徒の学力層が広い本校においては,内容理解が不十分な生徒も多く,授業の効果が得られないのではないかということから,教科書は生徒のアウトプットのモデルとして適切なレベルのものを選定し，パターン C・D を廃止し，アウトプット活動を通じて英語の基礎を定着させるという本来の目的に立ち返ることになった。現在ではパターンA・B の 2 つで授業を行っており，今後はパターン A で全ての授業を行うという方向にシフトしている。

3　研究テーマ設定の理由

昨年度から実施しているパフォーマンステストにおいての反省点をふまえ,生徒たちがより内容理解を深め,理解したことをより詳しく表現できるようになってほしいと考え,「反応・繰り返し」という点をより意識するよう指導しテストに臨ませたいと考えた。さらに Additional Question を課し，即興による言語活動にも挑戦させ，どの程度相手の質問を理解できるのか，どのような英語表現を用いて考えを伝えようとするのか，意欲をもってやりとりを続けることができるのかを観察し，英語力の実態把握と今後の指導につなげていきたいと考えている。

4　単元指導の内容

（1）科目・教材名

英語コミュニケーションⅡ・BIG DIPPER English CommunicationⅡ（数研出版）

Lesson６ Wakamiya Masako: The World's Oldest Game App Developer

（2）単元名

聞いたり読んだりしたことを基に，情報や考えを理由とともに話して伝える。

（3）内容のまとまり　「話すこと[やりとり]」ア

（4）単元指導の流れ（パターン A の流れ）

前半：

Paragraph chart→TF Question→Summary→Vocabulary scanning→Reading practice

→口頭での Comprehension (Q and A)

後半：

パフォーマンステストについての説明→個人・ペア・グループで質問を考え，５つの質問を決める。→ペアでシナリオを作成する。 →リハーサル→パフォーマンステスト本番→他の生徒の発表を聞く。→自分の発表を動画で確認し，自己評価する。

5　パフォーマンステストについて

（1）目標（テスト内容）

最高齢のスマートフォンゲームアプリ開発者・若宮さんの活動などについて，学習した語句や文法事項を用いて，情報や自分の意見を話して伝え合うやり取りを続けることができる。(ペアでトーク番組の司会者役とゲストの若宮正子さん役で番組収録を行うという設定のロールプレイをクラス全体で行う。発表以外の生徒は収録を見に来た客になり雰囲気作りを行う。)

（2）実施方法

① ペアで若宮正子さんへの質問を 5 つ考える。

② ペアで考えた質問をグループとクラス全体で出し合い 5 つの質問に絞る。

③ ペアで分担し原稿を作成する。若宮さんの紹介を 3 文以上でまとめる。
若宮さん役の原稿は一言だけでなく説明を加える。

④ 司会者役と若宮さん役を決める。発表は質問を考えたペアとは違う組み合わせで行う。
組み合わせは当日決定する。

⑤ 若宮さん役は質問カード 1～5 から 3 枚選び，司会者はそのカードの質問をする。

司会者は，その答えに“Really?”などの発話をしたり，答えを反復するなど反応・繰り返しを行う。

⑥ ３つの質問の後に司会者は自分が考えた質問を１つする。若宮さん役は即興でその質問に答える。

⑦ 生徒は自分の発表を録画する。最後に録画した動画を見て自己評価をし，自身のパフォーマンスを振り返る。

⑧ 発表以外の時間は他の生徒の発表を見る。配付された評価シートに採点も行う。

⑨ 評価者は発表を見て採点の基準に沿って評価を行う。録画をして記録として残す。

（３）評価基準

【原稿】

Grade	Score	Content
A	5	若宮さん役：3 つの質問に答え，質問に対し一言だけでなく説明を加えている。またその説明が興味を引くものになるよう，自分の表現が加えられている。 司会者役：若宮さんについて 3 文以上の説明があり，本文の抜き出しだけで終わらず，分かり易くなるよう工夫されている。
B	3	若宮さん役：3 つの質問に答え，質問に対し一言だけでなく説明を加えている。 ただし，本文の抜き出しだけで終わってしまっている。 司会者役：若宮さんについて 3 文以上の説明があるが，あまり工夫されていない。
C	1	若宮さん役：3 つの質問に全て答えていない，または質問に対し一言だけでしか答えていない。 司会者役：若宮さんについて 3 文以上の説明がない，または分かりにくい。

【発表】（司会者役とゲスト役で評価方法が異なる点がある）

①聞き手を意識し，また本文の内容を自分のものにしているか

Grade	Score	
A	5	話す相手を見て話し，感情を込めている。（意味のまとまりでポーズをとっている）
B	3	話す相手を見て話しているが，棒読みだったり，意味のまとまりでない部分でも区切っている。
C	1	メモを何度も見る／原稿がないと発表できない。

②声量は適切か

Grade	Score	
A	5	教室の後ろ（スタジオのお客さん全体）に聞こえる大きさである。
B	3	話している二人の間でやりとりができるくらいの声の大きさである。
C	1	目の前の相手にも聞こえないときがある。

③司会者の繰り返しができているか（この点については司会者のみ評価する。司会者はゲストの答えに反応し，さらに答えを繰り返す。ゲスト役は１の Score で再度評価する。）

Grade	Score	
A	5	反応と繰り返し　　×３回できていた。
B	3	反応と繰り返し　　×２回できていた。
C	1	反応と繰り返し　　×１回できていた。

④Additional Question

Grade	Score	
A＋	5	ゲスト役　Additional Question に答えることができた。 司会者役　ゲスト役の答えに反応と繰り返しをすることができた。

※「主体的に学習に取り組む態度」の評価は，パフォーマンステストにおいて「思考・判断・表現」と

一体的に評価する。「知識・技能」は定期考査において評価する。

【生徒コメント一部抜粋】
・自分なりの英語で相手の言ったことをまとめて，繰り返すことができた。
・しっかりと相手を見たりオーディエンスを見たりと視線を変え，質問の答えを要約することができた。
・ユーモアを交えながら適切なコミュニケーションができた。
・内容を良く理解できていた。
・楽しみながらインタビューテストができた。Additional Questions になんとか答えることができた。
・発表原稿の暗記ができていたし，相手との会話がしっかり噛み合ってできていた。
また初めてのアディショナルクエスチョンにも自分の持っている知識をフル活用して対応できた。
・発表が割と序盤のほうだったけど，緊張しながらもちゃんと若宮さんの紹介も質問もリアクションも全体的によかったと思う。1年生の時よりかは成長したはず！！
・もう少し早く繰り返す言葉を整理できるようにしたい。
・もう少し発音を意識して発表したい。
・要約した文章が短すぎるので，もう少し本文を読んで理解したい。
・繰り返すところでもっとゲストが話していた内容を取り入れたい
・もう少しオリジナルな答え方ができるように練習していきたい。
・追加の質問をされた時に，はい・いいえだけで答えるのではなくて一緒に理由なども付け加えて答えたい。
・自分が思っていた回答と違うものが来た時にうまく繰り返すことができていなかったから，しっかり聞き取れるようにしたい。

6　考察（成果と課題）
〇より良い質問やシナリオを作るために教科書本文を何度も読みこまなければならなくなるため，生徒は自然にインテイクに向かうことができる。
〇既習の表現を使って書いたり話したりすることでインテイクが促進される。
〇発表という形態での緊張感もあり，話す内容だけでなく，伝え方の面でも工夫しようという意識が生まれる。
〇同じロールプレイの形式を続けることで，徐々に内容に集中したやりとりができるようになる。
〇リテリングで終わるパターンＢより，1年後の教科書語彙の定着が良いようだ。
〇英語が苦手な生徒でも，前年度の教科書語彙を使っていることに，新任の先生が驚く場面があった。
△Additional Question の応答にはほとんどの生徒が積極的に取り組んでいたが，「理由とともに」話して伝えることができる生徒は少なかった。
△1課に15時間かけるということで生徒が飽きてしまうのではないか，クラスで１ペアずつ発表する時間がもったいないのではないかという懸念がある。
△大勢の前で発表するのが苦手な生徒への対応。
△教科書本文を丸暗記しての応答は，伝える技能を身に付けていると言えるのか。
△生徒にどのような力を身に付けてほしいかを第一に考えられていたかどうか。

生徒の自己評価からは，ほとんどの生徒が原稿を頭に入れて発表でき，即興でのやりとりにも積極的に取り組めたことがわかったが，文法のエラーに気づく生徒は少なかった。発音や表情には注目できていたものの文法面の改善が必要である。昨年度と比べて，追加質問に対して「はい・いいえ」の後に理由を述べようとする生徒が増えた点が進歩であるがその先に進めずもどかしさを感じている様子も見られ，この点については今後の指導でさらに向上を目指したい。

またICTを活用して発表形式を工夫することで時間短縮が図れるとも考えている。ロールプレイ以外のアウトプット活動も検討し，授業の改善を進めたい。これまでは準備型のパフォーマンステストが中心であったが，今回の研究で，内容や表現の定着が図れれば，徐々に即興的なやりとりもできるようになっていくという可能性を感じることができた。

7　質疑応答

質問１　（六ケ所高等学校　高橋先生）

パフォーマンステストで生じた文法的なエラーの事後指導を単元の 15 時間の枠に入れるのか，入れないのか。入れる場合なら前半のどこを削るか？

回答

15 時間の枠にさらに１，２時間振り返りの時間を設定するのは時数的に厳しい。ただ，今回は夏期講習で１時間設定し，振り返り・思い出しという目的で本文の音読・リテリングをさせた。そこで，また，同じようなエラーが出たら修正を加えた。加えて，本単元で扱った言語材料を論理・表現Ⅱでも扱うので，そこで時間を置いて思い出させるといった方法も考えている。

質問２　（百石高等学校　楠木先生）

オーディエンス役である生徒が行う他己評価と教員の評価の誤差はどれくらいあるのか？

回答

実際は生徒の評価を評価材料とはしていない。生徒が評価する目的は評価項目を聞き手側として意識させること，また，パフォーマンステストが終わった生徒に対して，オーディエンスの役割を続けさせることである。ただ，教師と生徒でベストパフォーマーを決める項目に関しては，差はなかった。

8　助言

今回の授業を通じて，TANABU Model が平成 25 年度から 10 年以上，より効果的な授業モデルとなるよう，今もなお進化し続けていることを知ることができた。パフォーマンステストにおいては他の教員も様々な取り組み・工夫をしており，様々な課題に直面していると思う。今回の取り組みが課題解決のヒントとなってほしい。また逆に，他校の成功事例の情報提供もあれば大いに助けになる。今回の研究授業については３点お話ししたい。

１点目　やり取りを継続する相手の質問の繰り返しについて

昨年度行ったインタビューテストでは司会者役の応答は一言で終わっていたが，今年度は，相手の言ったことを繰り返した後，それに対して一言で終わらず，さらにコメントを残すというやり取りが加わっていた。コミュニケーションを円滑に行うためには，相手が言ったことを正確に受け止め，それを踏まえて応答する必要がある。相手が言ったことをパラフレーズしたり，サマライズしたりして，相手が伝えたいことをお互いが確認することで，安心してコミュニケーションを継続することができる。そのため，このようなやり取りはコミュニケーションにおいて必須のスキルであると思う。シナリオの暗記にとどまらず，こういったスキル修得を目指した思考力が試される非常にレベルの高い活動だと思う。

２点目　即興性を生む additional question 導入と主体的に学習に取り組む態度の評価について

準備された質問に加えて，additional question の導入により即興性が求められる活動にすることによって，生徒は適度な緊張感を保ちながら，コミュニケーションを継続させようとする努力が見られた。また，準備段階の原稿においては，自分で表現しようとする点を評価対象にしているため，本文の抜き出し表現では終わらず，既習事項を用いながら自分で作文する姿勢もみられた。これらにより，主体的に学習に取り組む態度を評価する際に必要となる生徒の非認知能力を表出させることに成功している活動となった。また，活動の振り返りによって，さらなる効果を生じさせる可能性を含んでいると思う。

３点目　additional question 導入によるさらなる効果について

現在行われている体験型，探究型の授業ではいかに質の高い振り返りをするかが大事だと言われている。振り返りによっては，活動がただの体験に終わる場合が多い。動画の自己評価の場面では，生徒が記録された動画を見て，様々な振り返りをしていた。additional question の振り返りにおいて，自分が言いたいことを英語で言えなかった，表現の幅を増やしたいといった生徒がいるとしたら，そのような生徒は次回のパフォーマンステストに向けてより主体的に学習改善を図ろうとする姿勢が見られると思われる。今年度１回目のパフォーマンステストを終えて，「生徒に行動の変容が見られたか」と馬場先生にお伺いした際には，「多少は見られたが，まだ，目に見える大きな変化はない」とお答えになった。しかし，次のパフォーマンステストにおいて

は，前段階を踏んだ違った動きがあるのではないかと期待している。これらのプロセスを踏むことで質の高い学びになると思う。

今回の課題はパフォーマンステストに費やす時数が多いということであった。これらに対する解決策としては，教室内で複数のテスト会場を設け，それらをタブレット端末で録画し，動画を通じて評価するといった方法を考えているということであった。こういった工夫から，今後もTANABU Modelのさらなるアップデートが期待される。

知識・技能の定着を踏まえながらも，今回の発表に見られたように思考力・判断力・表現力，主体的に学習に取り組む態度の養成に軸足を移し，それぞれの相互作用を促していくことが今後必要とされる。発表をお聴きした先生方に対しては，今回の授業を参考にし，各校の実情に応じて指導に活かしてほしい。

【第１分科会】

「基礎学力の定着を目指して」

発表者	青森県立青森工業高等学校	教諭	福士　徳生
助言者	青森県立青森東高等学校	教頭	菊池　真理子
司会者	青森県立青森西高等学校	教諭	山本　梨奈
記録者	青森県立青森商業高等学校	教諭	工藤　春菜

１　学校概要

青森工業高等学校は大正２年に青森市立工業徒弟学校として始まり，令和５年に創立１１０周年を迎えた伝統ある学校である。機械科・電気科・電子科・情報技術科・建築科・都市環境科があり，令和６年４月現在で男子４５７名，女子７３名が在籍している。

２　履修科目と生徒の実態

全科共通して１年次で英語コミュニケーションⅠを３単位，２年次で英語コミュニケーションⅡを２単位，３年次で英語コミュニケーションⅡを２単位履修しており，論理・表現の履修はない。このように，高校３年間で英語を７単位しか履修しないこともあり，共通テストを受験しても点数を取れないのが現状である。

高校入学後に新入生を対象に実施したアンケートによると，多くの生徒が小・中学校で英語が嫌いになっていることがわかった。理由としては，単語が読めない・単語の並べ方や文法がわからない・何を言われているのかわからない，などがあげられる。実際，同アンケートでアルファベットを書かせているのだが，正確に書けない生徒が多かった。また，アンケートに回答した８０人のうち，英語で全ての曜日を正確に書けた生徒は４人だけだった。

３　アンケート結果と生徒の実態から浮かんだ本校の課題

アンケートの「英語は好きですか？」という問いに対して，「嫌い」と回答した生徒は５４％，「やや嫌い」と回答した生徒は１４％であり，英語に対してネガティブな感情を持つ生徒が全体の７割近くを占めていた。一方，「英語はあなたにとって必要ですか？」という問いに対しては，「必要」と回答した生徒が６７％，「やや必要」と回答した生徒が９％と，「英語は嫌いだが必要だ」と考えている生徒が多いことがわかった。そこで，生徒に必要なのは英語の基礎学力の定着であると考え，実践することとした。

４　実践

学習指導要領に則って構成･編集されている教科書が基礎学力の定着を図るには当然の教材であると考えた。そこで，新出語句の確認から本文音読，アクティビティにいたるまで，粛々と教科書を活用した。それに加え，

新出語句の練習や補充問題のプリント，週末課題なども出しながら，生徒の基礎学力定着を目指した。

5　生徒の現状と指導の苦労

単語の練習をさせても，スペルミスに気付かずに間違ったまま練習してしまう生徒がいる。あるいは，再提出する際，指摘された箇所を解答通りに訂正できず，数回再提出になる。また，授業内で取り組ませ答え合わせをした課題でもその場で提出しない生徒もいる。

それでも，提出してきた課題については，何度でも粘り強くやり直しをさせ，提出させている。

6　おわりに

本校の校歌にある「御国をおこさむ　工のわざ」というフレーズがとても好きである。この歌詞のように，自分の技術で国を興そうという気概を持って，生徒たちに頑張ってほしいと願っている。

7　質疑応答

質問１（弘前東高等学校　川村先生）

本校も同じような生徒の実態であり，教科書も同じものを使用している。１年次は週３単位とのことだが，年度内に教科書を終われるものかどうか知りたい。

回答（青森工業高等学校　福士先生）

活動を含め，なんとか年度内に終わらせている。教科書の展開にそのまま合わせて授業を進められるので，うまくやれている。アクティビティでは自分で調べさせると時間がかかってしまうので，必要な語句をまとめた資料を生徒に提示し，そこから選ばせると時間の短縮になる。

質問２（百石高等学校　楠先生）

スペルにこだわる理由は何か。

回答（青森工業高等学校　福士先生）

テストの際に書かせるので，授業内でもしっかり指導している。ただし，テストでは普段の授業よりも判定を甘くすることもある。「頑張って書くこと」を評価したい。

質問３（柏木農業高等学校　鳴海先生）

本校も同じ教科書を使用しているが，教科書全ての活動を行うのではなく本文理解と音読を中心に授業を行っている。英語の学力が低い生徒であっても，できるところを見つけて伸ばすことが大切だと個人的には考えている。内容の精選に工夫しているところがあれば教えてほしい。

回答（青森工業高等学校　福士先生）

教科書に沿った授業を受けるだけでも苦労している生徒がいる。それでも，生徒たちのできるところを見つけて，教員側が評価していくという姿勢が大切だと先生の話を聞いて思った。教科書通りに勉強するだけでなく，その中で見えた生徒の得意な部分をさらに伸ばせるような授業を行っていきたい。

助言者より質問（青森東高等学校　菊池教頭）

発表の中で１年次に取ったアンケートを３年次に返却しているという話があったが，先生からご覧になって生徒の変容などはあったか。

回答（青森工業高等学校　福士先生）

「嫌い」と言っているわりに，生徒たちはよく頑張ったな，と感じる。例えば，とても英語が苦手な生徒だが，こちらの粘り強い指導についてきて，３年間一生懸命単語練習等に取り組んでくれた生徒がいた。なぜ彼がそこまで学習に取り組んでくれたのか，理由はわからない。私と彼の間に人間関係ができていたからだったのかもしれないな，とも思う。がらっと変わった，という生徒はいなかったが，嫌いというわりに楽しそうに授業を受けてくれる生徒が増えた印象である。

8　助言

伝統ある青森工業高校の英語学習に対する生徒の赤裸々な実態を率直な語り口で共有していただいた。スペルの話にもあるように，英語学習について困難を抱える生徒が多い中，その生徒たちを指導される先生方の苦

労は大変なものであろうと推測される。

午前中に講演された石橋先生が紹介されたCLILや，本県が誇る２つのメソッドなど，英語指導には様々なアプローチがあるが，個人的にそこに正解や不正解はないと考えている。自分自身はたまたま進学校勤務が多く，５領域を受験に耐えうる力も兼ねていかに伸ばすかということを同僚の先生方と試行錯誤してきた。重要なのは，先ほど質疑応答でも話題になったが，生徒たちができること，そして必要なことは何なのかということを，我々大人が気づくことである。生徒たちがそれを身に付けたときの喜びや，次に向かっていく気概のようなものを英語の授業を通して感じさせることができれば十分なのかな，とも思う。

欲を言えば，生徒たちの活動の様子や先生とのやりとりが見えるような動画などがあれば嬉しかった。工業高校ならではのところで英語を使った活動や実際の活用場面を想定したような授業を見てみたいとも思った。いわゆる５教科以外の科目がたくさんあると思うので，そういった専門科目と関わった教科横断的な授業の実践も検討して欲しい。午前中の講演で石橋先生も「英語で社会を教える」とおっしゃっていたが，先ほどの話にあった３年間何度も課題をやり直して頑張った生徒の話のように，工業の専門科目で手に技を身に付けようとする生徒の態度や姿勢が，先生の英語授業で培われているならば素晴らしいことである。

【第２分科会】

商業高校における発音指導と論理的思考の育成

～選択科目での取り組み～

発表者	青森県立八戸商業高等学校	教諭	前田　祥子
	青森県立八戸商業高等学校	ALT	Susan Balding
助言者	青森県立田名部高等学校(定)	教頭	小山内　秀樹
記録者	青森県立八戸商業高等学校	教諭	佐藤　亜希子

（前田先生による発表）

1　はじめに

八戸商業高校で選択科目「ビジネス英会話基礎」「プラクティカル・プレゼンテーション」の授業を行ってきた経験から，本校生徒に「論理的思考力」を身に付けてもらうことが重要だと考えるに至った。

八戸商業高校では，各学年に商業科２クラス，情報処理科１クラスの３クラスある。グローバル人材の育成に加えて，商業人として地域との連携という視点を加えた「グローカル」人材の育成に力を入れている。このことは数年前に閉科した国際経済科による影響が大きい。本校ではＡＬＴが常駐しており，選択科目ではＡＬＴ主体で授業が展開されている。

2　論理的思考の育成について

昨今の情報化時代において，正確な情報を的確に判断する力が求められる。それと同時に多角的に物事を捉え，思考する力が求められている。また，思考する過程において自身や集団の考えを発展させることができる。

（１）論理的思考力が高まる利点

①多角的な視点で物事を捉える

②大量の情報の中から事実を正確に捉える

③質問力が高まる

④考えを伝え合う中で自身や集団の考えを発展させる

（２）論理的思考力を高めるための取り組み

①１年･･･写真描写のスピーキング，英作文やミニディベートなどを通じて，広い視野で物事を捉え，理由や根拠を考える意識付けを行う。スピーキングやライティングでは５Ｗ１Ｈを意識して，考えを発展させることができるような活動を行う。答えのない質問をすることでさまざまな視点で物事を考えるような機会を多く与える。活動ではLogic ChartやLogic Treeを活用する。

②２年･･･１年次からの活動をさらに発展させ，５Ｗ１Ｈを意識した英作文，スピーキングを行う。短い文にならないように，さまざまな情報を盛り込んだ文を作る活動をする。同時に，論理的な展開を意識したパラグラフライティングの指導を行う。

③３年･･･これまでの活動を継続的に行うと同時に，ディベートやプレゼンテーションで実践力を養う。ディベートやスピーチにおいては特にTriangular Logic(claim / evidence / reasoning)の観点が大事であり，この関係性がいかに重要であるかを実践を通して実感してもらう。

④３年間を通して，ＱＦＴ(Question Formulation Technique)=質問づくりを授業の中で行い，質問力を高めるとともに論理的思考力を育てる。

(Susan 先生による発表)

1　Goals of Improved Pronunciation

（1）Speaking: 生徒が伝えたいことがネイティブスピーカーに伝わる

（2）Listening: 生徒が新しい単語をしっかりと認識し，理解できる
(literally のような単語のｒやｌを聞き分けられる)

（3）Reading: 生徒が初めて見る単語をどのように発音したら良いかを推測できる

2　Pronunciation involves

（1）Phonemes: 個々の子音と母音の音

（2）Syllables: 子音と母音で構成される

（3）Words: 意味を持つ音節と音節の組み合わせ

3　A Framework for Teaching Phonemes

（1）Location: 音は口の中の前，真ん中，後ろのどこで作られるのか。舌，歯，唇，口蓋のどこで音は作られるのか。

（2）Movement: 音を作るために口のどこの部分がどのように動くのか。
そして，それがどの順番に動くのか。
または，どの部分が動かないのか。

（3）Length: 音は短い(短い音：d,　t,　k,　g,　b,　p,　f,　v,　ch)のか
長いのか(長い音：s,　z,　sh,　th,　m,　n,　r,　l)。

（4）Similar sounds: 生徒が知っている音で，似ている音があるか。

【Ｌ，R，日本語のラ行の発音指導】

・舌の位置：Ｌ･･･前方（歯と舌），Ｒ･･･後方（歯槽堤（上の歯の付け根）と舌），ラ行･･･真ん中（舌）

・動き：Ｌ･･･舌は口の中で内側に向かって動く。舌をゆっくりと上の歯の付け根に押しつけてから，喉の方に向かって舌を離す。口は開けたままにする。
Ｒ･･･舌を口の奥の方に引く。喉をリラックスした状態にする。唇をｗのようにすぼめて開ける。舌先は下にあり，動かさない。

・音の長さ：Ｌ･･･長く，Ｒ･･･長く，ラ行･･･短く

・似ている音（発音の仕方が似ている）：Ｌ･･･Th，Ｒ･･･日本語の「ん」，ラ行･･･Ｄ

※ＬとＲの発音指導がうまくいかない際には，発音の仕方が似ている音を参考にすることで，うまくいくこともある。

※鏡を使って，実際に生徒自身の口や舌の動きを直接見せることで，より効果的に発音を習得することができる。

4　A Framework for Teaching Words

（1）普通に単語を発音する

（2）それぞれの音を発音しながら黒板に単語を書く。ただし，強く発音される音節は大文字にする。

（3）その音節を強調しながら，再び単語を発音する。線で音節を分ける。

例：psy ｜ CHO ｜ lo ｜ gy
（４）あまりなじみのない発音を説明したり，必要に応じてカタカナやローマ字を使って違いを説明する。
（５）再度，生徒にリピートしてもらう

５　Ideas for ALT-led Pronunciation Activities
発音指導では，日本人教師だけでは難しいこともある。ＡＬＴに次のような例を出してもらい，練習することで定着を図ることもお薦めである。
（１）Animal sounds: 小さい子は動物の鳴き声で難しい音を覚える。
(purr, roar, moo, meow, arf, etc)
（２）Emotional interjections: “wow,” “er,” “blah,” “yay,” “ow,” “holy smokes,” などのような覚えることが難しい音素が入っている間投詞を使うことが会話能力の向上にもつながる。

６　質疑応答
なし

７　助言
タイトルの「論理的思考の育成」と「発音指導」は一見すると無関係のようだが，実はリンクしている。八戸商業高校ではグローバルな商業人を育成するために，英語科として実践的な英語指導に力を入れている。グローバル人材を育てるためには，論理的思考力が必要である。そして，思考の先にある「伝える」という行動がミュニケーション活動であり、さらに英語の場合，伝えたいことを確実に伝えるためには発音がとても重要であるということだ。２つの学校設定科目を通して，八戸商業高校で育てたい人材の育成をしているということである。論理的に意見を述べる力は一般社会で必要な力であり，これからの社会，世界で活躍するためにも欠かすことのできない力だ。
実際の取り組みでは，英作文もスピーキングも学年が上がるごとにレベルアップさせていると思われ，実践的な活動をしている。アウトプット活動に力を入れている点が魅力的だ。アウトプットをする中で発音指導は一番の基礎で，英語を正確に発音することができることが一つのきっかけとなって生徒の英語に対する自信につながり、グローバルな未来につながっていくこともある。自分自身の生徒にもそういう経験をした生徒がいた。私たち英語科教員がどのような生徒を育てたいかということが生徒の将来に影響を与える。これからも英語を好きになる生徒を育てていって欲しい。

【 第 ３ 分 科 会 】

テーマ
「新時代を生きる総合的なコミュニケーション能力を育成する英語教育～学習意欲を高める指導の工夫」

学力層に対応する「シン三本木メソッド」
～縮約版を活用した授業実践～

発表者	青森県立三本木高等学校	教諭	坂岡　優子
助言者	青森県教育庁学校教育課	指導主事	小角　大樹
司会者	青森県立三本木高等学校	教諭	貝瀬　清
記録者	青森県立三本木高等学校	教諭	野澤　由香子

１　これまでの経緯
本校は県内唯一の公立併設型中高一貫校である。中学校は各学年２クラス，高校は各学年６クラスから成り，高校には普通コース（４クラス）とグローバルサイエンスコース（２クラス）が設置されている。国公立を主

とした進学希望者がほとんどであり，大学進学率は毎年８０パーセントを超えている。生徒の進路目標達成に向けて英語の成績向上が大きな学校課題であったが，平成２５年度に文部科学省から「英語によるコミュニケーション能力・論理的思考力を強化する指導改善の取組」拠点校の指定を受け、当初行っていた英文訳読式の授業を改善する授業研究会を行うようになった。

２　三本木メソッドとは

教科書本文の Shortened Version を使って本文の概要把握，徹底的な音読反復による取り込み，リテリングを行ったあとで，本文全体の内容理解と本文の内容に即した表現活動を行い，受験に必要な知識の定着を図る手法である。具体的に英語コミュニケーションⅠを例に挙げると，１レッスン１２時間のうち最初の４時間で縮約版を使用する。次の５時間で教科書本文全体を扱い，最後の３時間で表現活動を行う３部構成である。このメソッドの最大の特徴は予習を課さない点である。単語リストは先渡しし，和訳・文法解説を省き，ペアワークなどの生徒の活動を中心として，それらを制限時間内に終わらせることを意識させながら行わせている。

３つの学年すべてで同じ授業体系を用いているため，生徒は次の活動が予測できるようになっている。

３　Shortened Version－縮約版について

教科書本文そのものを使用して縮約版を作る。縮約版は，概要把握に必要でない文を間引き，間引かなかった文をつなげたものである。全体の四分の一まで減らした英文は本文全体の要約となり，その英文量の少なさが反復学習を可能にして生徒が英文を自分の頭に取り込めるようになっている。

４　Lesson の流れ

１レッスンに１２時間を充てる。最初の４時間が縮約版を用いた諸活動である。ワークシート１には上半分に縮約版の英文が，下半分にはその日本語訳が載せてある。日本語訳に関しては生徒からの要望によるもので，今ではその形が定着している。ワークシート２は縮約版の英文をフレーズ単位に分解した日本語を付し，それに対応する英語を縮約版から探させる Key Phrase Check である。生徒はフレーズと縮約版の音読を何度も行うのだが，その際に様々な手法，例えば Read and Look up や Pen reading，Speed Reading などを用いて音読方法に変化を与えることで音読に飽きさせないように工夫をしている。また Activity sheet を使って Key Phrase Check で覚えた部分の英訳音読や全文英訳ライティングにも取り組む。この段階で英語が得意ではない生徒でも本文全体を読んでいないにもかかわらず十分に本文の内容が理解できるまでになっている。その後，Retelling に入る。Retelling のやり方にもバリエーションを持たせている。Key word をこちらから与える，Key word を生徒自身が設定する，写真を見ながら話すなどである。コロナ禍においてはタブレットに Key word を表示して自宅で Retelling を生徒が行いその画像を提出させることも実施した。ペアで相手の Retelling を聞くときには相手がどの英文を用いたか，どの Key word を用いたかをシートにチェックさせて相互評価を行わせている。教員はクラスによって異なる生徒の学力層に合わせてその時々で手法を選んで授業を行うようにしている。

次に本文全体内容理解に入る。５時間の時間をかける。まず日本文を見て対応する英文を探す Scanning を行う。この活動は英語が苦手な生徒でも日本語を頼りに英文全体を最後までどんどん読み進めることができるもので，理解が進むものになっている。この他にセンテンスハントも行っている。センテンスハントとは，英問に対する答えとなる英文を探してアンダーラインを引かせ，その部分を用いて英語で答えをまとめるものである。この英問は教科書の脚注に載っているものをそのまま使っている。これ以外にも内容理解のために日本語の穴埋めを行わせるパラグラフチャートを行うこともあり，レッスンの内容により様々なやり方を用いている。

最後の３時間で行うのが表現活動である。授業内において英語で話す時間を最大限とることを目標としているため本文全体の学習が終わったあとで，自分が面白いと思ったところや相手に伝えたいと思った部分を英語で伝える活動を取り入れている。やり方としてはまず，授業内で英語による原稿を作成させる。次に自分の原稿の中から Key word をいくつか選ばせる。生徒はその Key word だけを見て原稿全体を思い出しながら話すことになる。話す練習時間をとった後，実際に相手に英語で伝え合う。スピーチ後には相互評価を行い，グループ内で一番良かった人を選ばせる。最後に自分が話したものを Key word だけを見て英語で書く作業を行わせる。

5　生徒・教師の変容

三本木メソッドは活動中心のため，授業中に寝る生徒がいなくなり，英語が好きな生徒が増えて模擬試験の成績も向上した。レッスン毎に内訳の配当時間を変えられるため，表現活動に時間がよりとれるようにもなった。生徒対象に行ったアンケートによると，英語を話すことが好きな生徒が増えたことが窺える。教員側においても，共通のワークシートを作成するために教員間のコミュニケーションが増え，教員間で教える内容に差が出なくなった。３つの学年とも同じ教科書を使うことにより，一度作成したワークシートを次の学年と共有できることから授業準備の時間軽減になった。授業内においては，教員の一方的な説明の場面は少ないので，生徒の活動に注目できる。さらにこのメソッドは，多様な成績層の生徒にも対応が可能である。英語が得意ではない生徒も縮約版があることで内容が理解でき，ハードルが下がって「難しい」感が軽減されている。教科書は啓林館の LANDMARK を使用しているが，教科書の難易度を落とさなくても縮約版使用により本文全体の読みやすさが増す。生徒は厳選された教科書の英文をさらに厳選した縮約版を読み，その文をくり返し学習できる。縮約版だけを読ませることには教員側の不安感もあるのだが素材文全体を扱う時間をとることで，教員側の安心感にもつながっている。さらに上位層の多いクラスでは，表現活動の難易度を上げることで生徒の学力に合わせることが可能である。

6　シン三本木メソッド

本校では「生徒の学力層の多様化」に対応できる習熟度に応じた授業展開が求められている。難関大志望の生徒から英単語を読むことが難しい生徒までが在籍し，附属中学校（リテリングも授業で導入）で英語に十分な時間をかけてきた生徒とそうではない生徒が混在している。そのため，教員も大学進学に対応した授業展開と英語が得意ではない生徒の指導の両方が必要であり，その両方を同じシートを用いて同じ進度で授業するにはどうすべきかを協議会を通して研究している。今のところは１レッスン１２時間内の時間配分を学力層に応じて変えることで対応している。縮約版は英語が苦手な生徒には大変効果的でありここに多めの時間をかけることで確実に本文全体の理解が増す。一方，上位層の多いグローバルサイエンスコースでは知識定着の時間が少なくてすむため表現活動により多くの時間を費やすことができる。その表現活動もインタビュー形式やディスカッション，スピーチなど，様々な手法を試しているところである。

7　質疑応答

質問１（六ヶ所高等学校　福川先生）

縮約版を読んでから本文全体を読むとなると，類推して読まなくてはならなくて大変な部分があると思われるが，その際の効果的な指導法はあるのか。

回答（三本木高等学校　坂岡先生）

本文全体から特定の英文を抜き出すスキャンニングのプリントが効果的である。スキャニングのワークシートには日本文が付してあるので，その日本文に該当する英文はどれなのか探しながらどんどん読んでいる。教員からの言葉掛けは特になくとも，生徒が活動中にペアでアドバイスし合っている。ワークシート通り進めれば類推できるようになっている。

質問２（六ヶ所高等学校　福川先生）

知らない単語が出てきて，読むのを諦めたり，頭をひねっている生徒はいるか。

回答　（三本木高等学校　坂岡先生）

新出単語リストを先渡ししており，いつ見てもよしとしているが，見ている生徒はあまりいない。最後に表現活動があるので，本文の表現を用いて自分が話せるようになるために，本文の内容を読み取ろうとしている生徒が多い。縮約版から得られる情報量は少ないため，本文全体の内容が気になって具体例や細部を読み取ろうとの興味が増している印象がある。従って，質問のような生徒は見当たらない。

質問３（八戸西高等学校　三上先生）

最後のアウトプット活動の評価法はどうしているか。また，単に覚えた内容の再生からクリエイティブなアウトプットへ高めているのか。

回答　（三本木高等学校　坂岡先生）

英語を授業中に話すことを第一の目標として，発表グループ内で相互評価をさせている。クリエイティブ

さを求めた表現活動はまさに目標としているところではあるが，本文の内容をベースとして，個々の様々な意見を英語で伝えあう活動をまずは行わせている。クリエイティブさを求めた表現活動としては，ある翻訳家のレッスンを学習した後で，各自が有名人を自由に選んでプレゼンテーションを行う，などといった活動を行っている。

８　助言　小角指導主事

三本木高校は田名部高校と並んで，長期間にわたって教授法研究の取り組みを行っている全国的にも珍しい存在である。年３回程度の協議会を実施して授業改革に積極的に取り組んでいる。参加申込はどなたでもできるので多くの先生方の参加を望む。自分の授業のやり方はこれでいいのか，何か新しい方法はないかと考えている先生にはぜひ参加してもらい，参加した先生方で情報を共有してほしい。今後，三本木高校にはＩＣＴ機器活用とパフォーマンステストの実際について他校の先生方との情報共有を進めてほしい。

授業の最初に行うオーラルイントロダクションや英語での生徒とのやりとりについては，授業担当者がアイディアを出して工夫してほしい。そうすれば授業のつなぎの部分がスムーズになると思われる。単発的にアクティビティを入れるのはよくなく，英語の授業担当者が３人いるならばみんなで分担して活動を考えていくとよい。

英語教育実施調査によると，青森県の授業内における英語の使用率は，残念ながら低い水準にある。しかしながら，田名部高校や三本木高校のメソッドを活用すれば英語の使用率は改善できると強く感じている。自分自身も東北大会で公開授業を行った経験があるが，その際に英語によるやりとりが少ないとの指摘を受けた。英語による生徒と生徒のやりとりは簡単に増やすことができ，時間をかければ生徒はなじんでいくので実施してほしい。

全英連の全国大会で行われる模擬授業はCLILのようなやりとりが５０分の授業内に盛り込まれており，大変すばらしい。オンラインでも見ることができるので多くの先生方に見てもらい，今後の指導に活かしてほしい。

最後に三本木高校におかれては東北大会に向けて今日の質問を参考しながらさらに準備されたい。

部　会　の　動　き

令和６年

５月２０日（月）第１回役員会（於 青森県立青森南高等学校　コミュニケーションルーム）

案件（１）　令和６年度外国語部会役員（案）について
（２）　令和５年度事業報告及び令和６年度事業計画（案）について
（３）　令和５年度決算報告及び令和６年度予算（案）について
（４）　令和６年度青森県高教研外国語部会研究大会（案）について
（５）　ローテーションの確認
（６）　令和６年度青森県高等学校英語暗唱・弁論大会（案）について
（７）　令和６年度青森県即興型英語ディベート交流会（案）について
（８）　令和５年度東北六県英語教育研究大会及び中学校英語暗唱・高等学校英語弁論大会について（報告）
（９）　外国語部会規約の改正について
（１０）その他

７月２７日（土）青森県即興型英語ディベート交流会　（オンライン開催）

８月２０日（火）青森県高教研外国語部会研究大会（於 三沢市公会堂）
大会テーマ：「グローバル社会を共に切り拓く人材を育成する英語教育の在り方」
開会式・基調講演・公開授業・分科会（計３分科会：第３分科会発表者は東北大会で発表）

９月　５日（木）青森県高等学校英語暗唱・弁論大会（於 青森県総合学校教育センター）
暗唱の部（１校１名まで）　５名参加
創作の部（１校２名まで）２６名参加　※上位２名が東北大会へ出場

１０月３１日（木）第７４回東北六県英語教育研究大会（於 福島県立葵高等学校）
大会テーマ：「新時代を生きる総合的なコミュニケーション能力を育成する英語教育」
開会式・基調講演・公開授業（小・中・高等学校）
分科会（小学校１分科会・中学校３分科会・高等学校３分科会）
１１月　１日（金）第７２回東北六県中学校英語暗唱・高等学校英語弁論大会（於　會津風雅堂）
中学校の部６名，高等学校の部１２名参加
東北各県から暗唱の部・中学校（１名）と創作の部・高等学校（２名）参加
高等学校の部から２名が第１７回全国高等学校英語スピーチコンテストへ出場
１１月１５日（金）第７４回全国英語教育研究大会（全英連埼玉大会）第１日
（於　サンシティホール（越谷サンシティ））
大会テーマ「“シン・英語教育”～four skills から skill integration へ，
そして competency の育成へ～」
総会・基調講演・実演授業（小・中・高等学校）
１１月１６日（土）第７４回全国英語教育研究大会（全英連埼玉大会）第２日（於　獨協大学）
分科会第１部（小・中・高等学校計１５分科会）
分科会第２部（小・中・高等学校計１４分科会）
令和７年
１月３０日（木）第２回役員会（於 青森県総合社会教育センター）
案件（１）　令和６年度事業報告について
（２）　令和７年度事業計画（案）について
（３）　令和６年度決算報告（中間）について
（４）　令和７年度予算（案）について
（５）　今後の研究大会ローテーションについて
（６）　その他
２月　９日（日）第１７回全国高等学校英語スピーチコンテスト
（於　国立オリンピック記念青少年総合センター）

研　究　テ　ー　マ

紀要(集)	年度	研　究　テ　ー　マ	会　場	会員数	大　会参加数	大会発表者数
30	60	○これからの英語教育を考える －生きた英語力を育てるにはどうしたらよいか－	八工大第二高校	431	471 中高含	7
31	61	○英語教育に求められているもの －Focus on the learner－	五所川原高校	418	256	3
32	62	○自ら学ぶ力を育てる英語教育を目指して	弘前南高校	421	296	3
33	63	○国際化時代における英語教育のあり方を求めて	三沢高校	420	289	5
34	(平) 元	○国際化時代に対応する英語教育を求めて	青森高校	424	315	5
35	2	○コミュニケーション能力を育てる英語教育	八戸西高校	428	262	6
36	3	○コミュニケーション能力を育てる英語教育	板柳高校	408	272	7
37	4	○コミュニケーション能力を育成する英語教育	弘 前 中 央 高校	408	400 中高含	11
38	5	○コミュニケーション能力を育成する英語教育	三本木高校	395	249	12
39	6	○コミュニケーション能力を育成する英語教育	青森南高校	408	279	11
40	7	○コミュニケーション能力を育成する英語教育	八戸高校	426	274	9
41	8	○コミュニケーション能力を育成する英語教育	鰺ヶ沢高校	430	231	7
42	9	○コミュニケーション能力を育成する英語教育	弘前高校	435	260	12
43	10	○コミュニケーション能力を育成する英語教育	青森文化会館	423	1464	18
44	11	○コミュニケーション能力を育成する英語教育	田名部高校	417	179	7
45	12	○実践的コミュニケーション能力を養う 青森県の英語教育のあり方	八戸南高校	417	215	8
46	13	○国際化の中における青森県の英語教育のあり方	鶴田高校	410	166	8
47	14	○新学習指導要領に対応する英語教育のあり方	黒石高校	406	200	3
48	15	○新学習指導要領に対応した 青森県英語教育の課題解決をめざして	青森東高校	405	182	3
49	16	○コミュニケーション能力の育成ための課題解決を模索して －How Can We Solve In Improving Communicative Competence?－	八戸高校	367	269	3
50	17	○実践的コミュニケーション能力を育成する指導と評価	三沢商業高校	367	126	3
51	18	○実践的コミュニケーション能力を育成する指導と評価	木造高校	348	130	3
52	19	○実践的コミュニケーション能力を育成する指導と評価	弘前文化センター	328	122	3
53	20	○実践的コミュニケーション能力を育成する指導と評価	県総合社会教育センター	326	137	3
54	21	○実践的コミュニケーション能力を育成する指導と評価	県総合社会教育センター	331	119	4
55	22	○「発信力」を育成するための4技能を統合した英語教育を 目指して（第60回東北六県英語教育研究大会）	弘前文化センター	340	344 中高含	7
56	23	○コミュニケーション能力を育成する指導と評価	八戸工業大学	341	120	4
57	24	○コミュニケーション能力を育成する指導と評価	県総合社会教育センター	324	125	4
58	25	○コミュニケーション能力を育成する指導と評価	アピオあおもり	338	135	4
59	26	○今、高校英語教育に求められているものは何か？	三沢市国際交流教育センター	337	120	5
60	27	○今、高校英語教育に求められているものは何か？	きざん八戸	323	136	9
61	28	○グローバル社会に貢献できる人財を育成する英語教育	リンクステーション青森	333	333 中高含	11
62	29	○グローバル社会に貢献できる人財を育成する英語教育 ～今、高校英語教育に求められているものは何か～	松の館（つがる市）	317	124	5
63	30	○グローバル社会に貢献できる人財を育成する英語教育 ～今、高校英語教育に求められているものは何か～	弘前文化センター	303	142	6
64	(令) 元	○生涯にわたって国際社会で生きていくための英語教育 ～協働的な学びを通して～	三沢市公会堂	309	127	14
65	3	○生涯にわたって国際社会で生きていくための英語教育 ～協働的な学びを通して～	オンライン	292	70	5
66	4	○生涯にわたって国際社会で生きていくための英語教育 ～協働的な学びを通して～	県総合社会教育センター	285	109	7
67	5	○グローバル社会を共に切り拓く人材を育成する英語教育の 在り方	八戸市公会堂	263	249 小中高含	29
68	6	○グローバル社会を共に切り拓く人材を育成する英語教育の 在り方	三沢市公会堂	258	104	5